

正字通云、瘰癧並俗疥字、今皆勿用、正字通引、鮮卑傳其下云、韻會引入疥註、改作蚘、謂疥通作蚘、集韻亦作瘰、篇海別作癬、並非、以是爲斷、極佳、癩音戈、字彙云、疽瘡、又云、禿瘡、康熙字典云、同瘋、而瘋下云、玉簫瘡也、集韻禿也、一曰創也、正字通云、癩有戈、科瓜三音、方俗異讀、具爲癩創一也、而皆未見有似疥義、此由字書之不詳于醫事耶、併考諸醫書、可自知也、

〔醫心方十七〕治疥瘡方第三

病源論云、疥有數種、有大疥、有馬疥、有水疥、有干疥、有濕疥、多生手足、乃至遍體、大疥者、作創、有膿汁、焮赤、癢痛是也、馬疥者、皮肉隱嶙起、作根、墮搔之、不知痛、此二種則重、水疥者、作瘡、如瘰癧、摘破有水出、此一種小輕、干疥者、但癢搔之、皮起作干痂、濕疥者、起小創、皮薄、常有汁出、並皆有虫、人往々以針頭挑得、狀如水內癩虫、此悉由皮膚受風邪熱氣所致也、九虫論云、蟻虫多作癩疥、

〔覆載萬安方〕諸疥

世俗ニ云ハタケカサ、或云カユガリ、小瘡也、服四物湯太有神驗、

〔文德實錄九〕天安元年六月壬午、中納言正三位源朝臣定上表曰、略○中自去春末疥瘡纏身、五月以來

更亦殊劇、舉體腫、無階起居、醫療無驗、日夜苦辛、計其能痊、當曠時月、

〔台記〕康治元年七月廿日辛亥、小兒疥平復、依聞實闍梨祈也、雖末代佛法靈驗殊勝也、

〔乳母のさうし〕九條殿のきたのまん所の御かほには、たけといふものできて、見にくきほどに

ありし時、てんやくのかみ申けるは、たふをくれなるにそめて御のごひ候は、御かほのはたけ

よくなり申よし申ければ、夫よりしてこ、かしこより御顔のごひ參らせらる、なり、

〔病名彙解二〕疥瘡 肥前瘡ノコトカ、古ヘヨリハタケト云訓アレドモイマダ的當セズ、癬ハタム

シノコト也、癬疥ト云バ癬モ疥モ濕毒ノ惡氣ナルユヘニ連續シテ云ヘドモ病狀ハ別ナリ、正宗

ニ云夫疥瘡バ微芒ノ疾也、コレヲ發シテハ人ヲシテ搔テ手閑ナラザラシム、但其何ヲ以テ生ズ